

# 第1学年国語科学習指導案

## 1 単元名 筆者への反論を試みる

主教材「私にとって都市も自然だ」日野 啓三

平成5年 第一学習社 高等学校新訂国語一 現代文・表現編

初出 - 『都市という新しい自然』昭和63年 読売新聞社

補助教材「自然と人工」多田 富雄

平成15年 明治書院 新編国語総合

初出 - 『独酌余滴』平成11年 朝日新聞社出版局

## 2 単元観

筆者に反論する活動を取り入れることで、評論文における「読むこと」の力を付けることを目指す。筆者への反論を行うことで、文章を的確に読み取り、筆者の考えに向き合う必然性を生み出し、自分の考えの形成につなげることができる。他者と協同して読ませるために、構造マップを作成させる。さらに、浅い読みのまま受動的に筆者の考えを受け入れないように、補助教材として異なる自然観の評論を取り上げていく。

### (1) 生徒観

抽象度が高く、筆者の個性が強く表れる評論は、内容をとらえにくいこともあり、生徒は文学的文章に比べて興味をもてないでいる。定義を変えることにより、身近な事象でも見方が変わることは、素直に驚きの声を上げる生徒が多いが、そこから筆者の考え方に興味を抱いたり、作品と向き合うことを通して自分のものの見方を広げたりすることにはつながっていきにくい。

進路に関係する等個人的に関心の深い分野に対しては、筆者の考えに「そのような見方ができるのか。」「現実的ではない。」と、生徒は、共感、反発をすることで、読みを深めていく。しかし、社会での大きな話題と関係した作品を除けば、一人一人の関心の違いで作品に臨む姿勢に差が生じている。そこで、筆者への反論を活動として行うことで、生徒のもつ対抗意識を刺激し、読みへの関心を引き出させる。同時に、論の展開を的確に読み取り、筆者の考えを読む必然性を生み出すことができる。

これまでの評論学習を通して、根拠を踏まえて主張が述べられる文章構造に注目することは、ある程度できるようになっている。しかし、筋道立てて考える力の習得はまだ十分とはいえず、キーワードへの着目や段落相互の関係のつかみ方等、評論の読み方に関しては、生徒間の能力差が大きい。そこで、論理の流れやキーワードのつながりを視覚的に整理できる構造マップを班別に作成させることで、学び合いの場とする。話し合いと成果の発表を併せて行わせることで、活動に対する関心を高め、より確かな読みに導けると考える。

一部に進んで多読している生徒もいるが、全体に軽読書に偏る傾向がある。教師が推薦する本には興味を示すが、説明文・評論文の新書などは、自分の進路と関係がない限り、読書の対象としない生徒が多い。評論で新しい考え方を得られることを教えることで、文学だけでなく、新書等を対象とした読書へと導くことにもつながる。

### (2) 教材観

生徒は、人工と自然を対立する概念ととらえて、身の周りの事物を見ている。それに対し主作品では、自然を人間の実生活での経験や意識とつながるものすべてと見なし、都市のような人工物までも含めて考えている。生徒は自分たちの常識とは違う視点に触れることで、それまで絶対のものと思いこんでいた対象と概念との関係について考え直すようになる作品である。時間や社会等抽象度が高い他の評論に

比べ、具体例を思い浮かべやすい自然をテーマとしており、生徒も比較的取り付きやすい。昭和63年発表の作品だが、常識を問い直す視点を含んだ教材としての魅力は失われていない。

具体的な事物を挙げて概念を規定し、読者が当然抱くであろう疑問に対する反論もあらかじめ織り込んでおく等、多くの裏付けを用意した主張がなされている。概念を巧みに拡大していくやや強引な論の展開は、生徒の読み取りを難しくするが、逆に反論させる切り口にもなる。また、キーワードのつながりや論の展開に関して理解を助ける手立てとして、構造マップを用いた班活動を行わせる。

「自然」という言葉にどのような意味を込めるかを問題にしている点で記号論的要素も含み、習得する視点や読み方が今後の評論の学習にもつながっていくので、評論を本格的に学習し始めたばかりの1年生の教材として適当である。

### (3) 指導観

主教材には専門性や難易度が高い語句はあまり登場しないが、辞書の意味を踏まえ、更に文脈から意味をとらえなければならない箇所が多い。また、概念を規定しながら説明が進んでいくので、生徒が深く考えることなく読み流したり、筆者の考えを無批判に受入れるだけに終わらないようにする指導工夫が必要になる。

今回の単元では、筆者に反論を試みるという学習目標のもとに、班で作成させる構造マップでキーワードのつながりや論理の流れを確認させ、従来の自然と筆者が提案する自然の概念の違いを把握させる。さらに、整理した概念について発表・質疑をさせることで、グループ内での話し合いに目的をもたせ、筆者の考えを的確に読み取ることへの意欲につなげさせる。

生徒は評論の主張を無批判に受け入れ、新たな真実と誤解することがある。評論はあくまで、多様な考えの一つを筋道を立てて表現した作品であることに気付かせ、ものの見方を広げることにつなげさせる必要がある。そのため、自然について似たとらえ方をしながら、違う自然観の作品を補助教材として読み比べさせる。さらに、単元の前で自分の自然に対する認識を書き比べさせることで、ものの見方が広がったことを実感させる。

## 3 単元の指導目標

論理の展開を考えさせながら、的確に筆者の考えを読み取ることができるようにする。

評論を読む意欲を高め、ものの見方を広げることができるようにする。

## 4 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	ア 評論を読む事への意欲をもち、積極的に話し合い・発表に参加している。
読む能力	イ 文章の内容を叙述の即して的確に読み取っている。 【国語総合 C「読むこと」ア】 ウ 文章を読んで、ものの見方、感じ方、考え方を深めている。 【国語総合 C「読むこと」ウ】
言語についての知識・理解・技能	エ 文章の組立て、語句の意味、用法及び表記の仕方等を理解している。 【国語総合〔言語事項〕イ】

## 5 単元計画(全5時間)

時	主な学習活動	教師の指導・支援	評価とその方法
1	自然をどのようにと	生徒がもつ自然についての概念を、具体	ア 自然についての自

	<p>らえられているかまとめる。</p> <p>題名による問題提起を踏まえ、筆者のものの見方をまとめる。</p> <p>自然と人工の区別をなくす筆者の見方を自分たちもしていないか思い起こす。</p>	<p>例をあげさせた上でまとめ、発表させる。</p> <p>辞書を引かせ、自然の一般的概念を確認させる。</p> <p>自然と人工の対立構造を確認させる。</p> <p>2～5段落で取り上げられている対象のそれぞれの特徴を考えさせ、筆者がどのような観点で取り上げているのか、発表させる。</p> <p>現代の風景を思い起こさせ、そこに人工物と人工物でないものとを分けてとらえることを自分たちもしているか問い掛ける。</p>	<p>分なりの把握に意欲的に取り組んでいる。</p> <p>【ワークシート, 観察】</p> <p>イ 筆者の観点を、本文中の具体例を踏まえてまとめている。</p> <p>【ノート, 観察】</p>
2	<p>2種類の自然の説明について整理し、発表する。</p> <p>筆者が反論される点を自分からあらかじめ提起し、新しい概念を提唱している点について考える。</p> <p>筆者の主張の背後にある論理の流れを把握する。</p> <p>「郷愁」「原風景」についての意味を調べる。</p>	<p>班ごとに、それぞれの自然が本文中のどの記述とつながる自然か確認させながら、自然を2種類に区分させる。</p> <p>「合成自然」「純粋な自然」の区分は、筆者が作り出した概念であることが分かる表現を抜き出させ、新しい自然の概念について整理させる。</p> <p>次回作成する構造マップについて説明する。</p> <p>辞書で調べさせた上で、具体的にどのような時に使われる言葉か考えさせる。</p>	<p>イ 本文の記述を踏まえて、合成自然の定義をしている。</p> <p>【ノート, 観察】</p> <p>エ 読者が疑問をもつ点への回答や新しい視点の提案があることにふれてまとめている。</p> <p>【ノート, 観察】</p>
3	<p>11～18段落の言葉相互の関係を整理し、作者の主張する「自然」の概念について考える。</p>	<p>グループごとに、話し合いをさせ、構造マップを作成させる。関係が分かるように矢印やグループの囲み、補足する言葉を記入させる。</p> <p>グループ内の班の代表に、筆者の論の展開について説明させる。</p>	<p>イ 自然に関する言葉を、関係づけてマップ構造にしている。</p> <p>【発表, ワークシート】</p>
4	<p>「柔軟な感性」「人間を含む自然」「人間の意識と～する自然」の持つ意味についてまとめ、発表する。</p> <p>従来の自然観の問題点を考える。</p> <p>筆者の自然観に反論する。</p>	<p>言葉の背後にある現実を確認させながら、筆者の主張する理由を明らかにさせていく。</p> <p>従来の自然観の問題点をマップ状にまとめさせる。</p> <p>班ごとに話し合い、人工との関係を踏まえて筆者が自然をどのようにとらえているのかを考えさせる。</p> <p>筆者の論を全否定できなくても、部分的な指摘や、論証として書かれていない点の指摘でもよいことを伝える。</p>	<p>イ 筆者の自然観に沿って、具体的に説明している。</p> <p>【ノート, 観察】</p>

5	<p>筆者の自然観についてマップを作り、具体的に把握する。</p> <p>主教材の自然観と比べ、自然に多様なとらえ方があることについて考える。</p> <p>自分にとっての自然は何かをまとめ、発表する。</p>	<p>自然と人工の関係、筆者のとらえる自然について、班ごとに話し合いまとめる。</p> <p>主教材の自然観と比べさせ、自然に多様なとらえ方があることに気付かせる。</p> <p>各自が自然をどのように位置づけるか、対象を箇条書きにさせ、そこに共通する特徴・性質は何か考えさせる。</p>	<p>*イ 自然の概念を作品ごとに区別してまとめている。</p> <p>【ノート、観察】ウ 具体的対象から導かれる自分なりの自然観を書いている。</p> <p>【ワークシート】</p>
---	---	--	--

## 6 各時の指導

- (1) 目標 常識としてとらえていた自然の概念と、筆者の自然観との違いを理解できるようにする。
- (2) 展開 (1 / 5 時)

過程	学習活動	指導・支援 * 評価
導入	1 「自然」という言葉の意味を確かめる。	<p>各自に自然の定義をさせた上で、自然の対象になる具体的なものを、なるべく性質が異なるものから5つ選び、ワークシートと発表用紙に書かせる。</p> <p>例)ぶな、すずめ、砂、熱帯林、台風</p>
展開	<p>2 自然を自分たちがどのようにとらえているかまとめる。</p> <p>3 題名による問題提起を踏まえ、筆者の事物の見方をまとめる。</p>	<p>黒板に分類表の見出しを張り、指名した数人に自分のパネルを磁石で留めさせる。埋まらない項目に入るものや、分類表以外のものを考えた生徒がいれば発表させる</p> <p>筆者の自然観に近いものを書いていけば、そう考えた理由を尋ね、今回の学習につながることを伝える。</p> <p>辞書を引かせ、人工と対立している自然についての一般的概念を確認させる。</p> <p>自然についての辞書(旺文社 国語辞典)の説明、「人間の力が加わっていない物事そのままの状態」「人間を含む～万物」が、自分たちの考えと重なることを確認させる。</p> <p>*ア 自然についての把握に意欲的に取り組んでいる。</p> <p>【ワークシート、観察】</p> <p>辞書で確認した内容と矛盾する題名であり、そこに独自の視点(「私にとって」)があることを指摘する。その上で、評論の特徴を再度確認させる。</p> <p>主教材1～6段落を通読させ、2～5段落で筆者が注目したものとそのときの心情が分かる箇所に傍線を引かせる。それぞれの特徴と筆者がどのような観点で取り上げているのかノートに書かせ発表させる。</p> <p>*イ 筆者の観点を、本文中の具体例を踏まえてまとめている。</p> <p>【ノート、観察】</p>

	4 自然と人工の区分をなくす筆者の見方について考える。	<p>自然の美しさの形容に、人工物の比喩が使われている点に着目させる。</p> <p>普段見ている現代の風景を思い起こさせ、人工物とそうでないものを分けてとらえているか、問い掛ける。</p> <p>写真を見せ、人工物を含んだ自然と都市の風景に対し自分たちがどこで感覚的な区切りを付けるか問い掛ける。</p>
終末	<p>5 本時の学習を振り返り、「自然」という言葉に様々な意味が込められることを確認する。</p> <p>6 単元の学習の流れを見通す。</p>	<p>記号論の説明に深入りしないようにしながら、言葉と対象との関係は固定されたものでないことを説明する。</p> <p>本時で確認した、筆者の自然観に反論を加えることを伝える。全否定でなく、部分への反論や、論証として書かれていない点を指摘する形でもよいので、使える材料に気付けば、メモ等を残していくことを予告する。</p>

(1) 目標 反論される点に対する言及等、読者を説得する文章展開をとらえさせる。

(2) 展開(2/5時)

過程	学習活動	指導・支援 * 評価
導入	<p>1 単元の学習の流れを確認する。</p> <p>2 前時の学習を振り返り、筆者の自然観に対する自分の反応をまとめ、発表する。</p>	<p>反論する材料を探すためにも、的確に論を追う必要があることを伝える。</p> <p>筆者の自然観を受け入れることができるか、できないならその理由まで尋ねる。</p> <p>「ビル等の人工物を自然と呼ぶのには、抵抗がある」</p> <p>「筆者の個人的な感想で、一般化はできない。」</p>
展開	<p>3 6～10段落を通読し、2種類の自然についての説明を整理する。</p> <p>4 筆者が反論される点を自分からあらかじめ提起し、新しい概念を提唱している点を考える。</p>	<p>すべての「自然」という言葉に傍線を引かせ、従来の自然と筆者の自然とを区別する言葉を抜き出させる。</p> <p>「合成自然」「純粋な自然」</p> <p>「自然に」を指摘する生徒がいた場合は、自然という言葉に込められた意味の多さの例として説明する。</p> <p>「合成自然」「純粋な自然」の概念区分は、筆者が作り出したものであることが分かる表現を抜き出させ、新しい自然の概念について整理させる。</p> <p>「呼ぶとすれば」、「いわば～とでも名づける」</p> <p>6～10段落から、「合成自然」「純粋な自然」に含まれる対象(説明)にそれぞれ違う印を付けた傍線( - - - - , - - - - 。 )を引かせ、概念の違いを確認させる。</p> <p>具体的な概念をまとめさせる。</p> <p>「合成自然」「純粋な自然」が、本文中のどの記述とつながる自然か確認させながら、自然のとらえ方を2つに区分することについて考えさせる。</p> <p>*イ 本文の記述を踏まえて、合成自然の定義をしている。</p>

	5 本時の学習で筆者の自然観について自分が受け入れにくい点を考える。	<p>【ノート，観察】</p> <p>各段落ごとの内容を振り返らせ，筆者が自分の思いを断言したり，「～か。」の表現を繰り返したりする効果について考えさせる。</p> <p>*エ 読者が疑問をもつ点への回答や新しい視点の提案があることにふれてまとめている。</p> <p>【ノート，観察】</p> <p>やや強引に展開される筆者の論に抵抗を感じたり，受け入れにくい点があれば，ノートにできるだけ理由を添えて記入させる。(箇条書きでもよい。)</p>
終末	6 筆者の主張の背後にある論理の流れを把握する。	<p>構造マップについての説明をした後，今回の授業範囲での構造マップをプリントで示し，言葉のつながりを振り返らせる。</p> <p>次回11～18段落を構造マップを使って整理することを予告する。</p>
	7 「郷愁」「原風景」についての意味を調べる。	<p>「郷愁」「原風景」の意味を辞書で調べさせた上で，具体的にどのようなときに使われる言葉か考えさせる。次回筆者の自然観を考える上で鍵になる言葉であることに触れる。</p>

(1) 目標 論の展開を踏まえて現代における自然と人間のかかわりをとらえられるようにする。

(2) 展開 (3 / 5 時)

過程	学習活動	指導・支援 *評価
導入	1 前時を振り返り，活動のやり方を確認する。	<p>(班ごとに別れて席に着いておく)</p> <p>本時の説明をし，構造マップの仕組みと，最終的にできあがる形を示すことで，話し合いへのスムーズな取り掛かりを図る。</p>
展開	2 11～18段落の言葉の関係を整理し，筆者の主張する「自然」についてまとめる。	<p>前時に配布したワークシートを参考にさせる。</p> <p>班をA [ 11～13段担当 ] B [ 14～17段担当 ] のグループに分けて，担当箇所をまとめ(学習活動 )，発表で説明をどのように行うかまで話し合う(学習活動 )ことを指示する。</p> <p>学習活動 を同時に行わせず，2での言葉同士の関係を十分に検討させる。</p> <p>「第二次自然」「現実の自然」が具体的に何を指すのかも班内でまとめさせる。</p> <p>作成中に，論のつながりが分からない点や疑問に思う点が出た場合は，メモにし，マップの中に表示させる。</p> <p>言葉同士の関係を矢印・枠囲み等を使い整理させ，相互の関係やそれぞれの段落で説明されているポイント，補足する言葉をカードに記入させる。話し合いを通して，カードを移動，修正，作り直させる。</p> <p>まとめればワークシート上に固定させる。</p> <p>2時間目で押さえた流れと明らかに違う方向に進んでいる班に対しては，押さえるべき本文の箇所を助言する。</p>

	3 A Bグループから代表班が発表する。	<p>A (11～13段担当) B (14～18段担当)のグループの中から筆者の論の展開と主張について説明させる。</p> <p>スキャナーで発表班のワークシートを取り込み、プロジェクターに投影した図を基に説明させる。</p> <p>グループ内で発表しなかった班にコメント(補足・講評)をさせる。…必ず肯定的評価を最初に述べさせる。</p> <p>*イ 自然と人間に関する言葉を、関係付けてマップ構造にしている。</p> <p>【発表, ワークシート】</p>
終末	4 今回の範囲の筆者の主張と論の流れを振り返る。	<p>発表で言及されなかった点があれば補足・指導する。</p> <p>各班からあげられた疑問点のある程度まとめて取り上げる。</p>

(1) 目標 筆者の主張を読み解くことを通して、自分たちと自然との関係について考えられるようにする。

(2) 展開 (4 / 5 時)

週	学習活動	指導・支援 * 評価
導入	1 前時を振り返り、筆者の自然観を確認する。	<p>(班ごとに別れて席に着いておく)</p> <p>前回作成した各班のワークシートを配り、比較させる。生徒自身が見過ごすような点には補足説明をする。</p>
展開	<p>2 「柔軟な感性」「人間を含む自然」「人間の意識ととじかに連動する自然」のもつ意味についてまとめ、発表する。</p> <p>3 筆者の自然観に反論する。</p>	<p>前回の作成したワークシートを参考に、筆者の自然観を論理の流れに従って考えさせる。</p> <p>言葉の背後にある現実を確認させながら、筆者が独自の自然観を主張する理由を明らかにさせていく。</p> <p>これまでの内容を振り返らせ、現在我々がおかれている現状を考えさせる。</p> <p>*イ 筆者の自然観に沿って、具体的に説明している。</p> <p>【ノート, 観察】</p> <p>ワークシートの枠を班ごとに埋めさせる。これまでに書いたメモを班内で紹介させ、出てきた意見を反論の切り口にし、班内で理由等を補足し合いながらまとめさせる。</p> <p>筆者の論を全否定できなくても、部分的な指摘や、論証として書かれていない点を指摘する形でもよいことを伝える。</p> <p>各班のワークシートをスキャナーで取り込み、プロジェクターで投影し、それぞれの考えを比較させた後、代表班に発表させる。</p> <p>主教材での自然の扱い方に抵抗を感じても、自然の新しい見方が述べられている点は否定できないことを確認させる。自然についての評論がほかにもあることを紹介し、多くの自然の見方があることを伝える。</p> <p>主教材での学習を振り返らせ、筆者の主張や考えがどのよう</p>

	4 「自然と人工」について通読する。	に展開されていたのかを確認させる。 筆者の自然観が分かる箇所に傍線を引かせながら通読させる。
終末	5 次回の学習活動を確認する。	人工との関係を踏まえて、筆者の自然観をとらえるとともに、自分の自然観と比べていくことを伝える。

(1) 目標 多様なものの見方があることを実感させ、自分の自然観を確認させる。

(2) 展開 (5 / 5 時)

過程	学習活動	指導・支援 * 評価
導入	1 本時の学習活動を確認する。	(班ごとに別れて席に着いておく)
展開	2 筆者の考える自然がどのようなものか、マップを作り、具体的に把握する。  3 主教材の自然観と比べ、自然に多様なとらえ方があることについて考える。	4 段落以降を作業の対象とし、本文の整理・要約をするのではなく、人工との関係を踏まえて、筆者の自然観が分かるようなマップを作ることを確認する。 最終2段落の内容を押さえ、筆者の自然観が伺える点を示し、活動の方向性を示す。 主教材で扱った「純粹自然」「二次的自然」「人工物」をキーワードに、本文中の具体例を中心にグループ化させ、筆者の自然観がどのようなものか考えさせる。 スキャナーで各班のワークシートを取り込み、プロジェクターで投影し、それぞれのマップを比較させた後、代表班に説明させる。(ここまでの、全時間を通して最低1回は各班に発表させる。) 自然という言葉が2つの作品でどのような意味を込めて使われているか、問い掛ける。 「純粹自然」「二次的自然」「人工物」の概念が、2作品の中でどのように扱われているか確認させる。 *イ 自然の概念を作品ごとに区別してまとめている。 【ノート、観察】 各自が自然をどのように位置付けるか、対象を箇条書きにさせ、そこに共通する特徴・性質は何か考えさせる。 1 限目にまとめた自分の自然観と対比させる。 *ウ 具体的対象から導かれる自分なりの自然観を書いている。 【ワークシート】
終末	4 単元全体を振り返り、ものの見方は固定されていないことについて考える。	新しいものの見方をもつことで身の回りのものとのとらえ方が大きく変わることを伝える。 図書館の到着案内を配付し、教科書の目次と合わせて参照させ、様々なテーマでものごとの問い直しがなされていることを紹介する。 構造マップや反論の視点は、小論文を書く際などにも応用で



きることを紹介する。